

基本目標  
3

安全で快適に暮らせる  
居住環境づくり

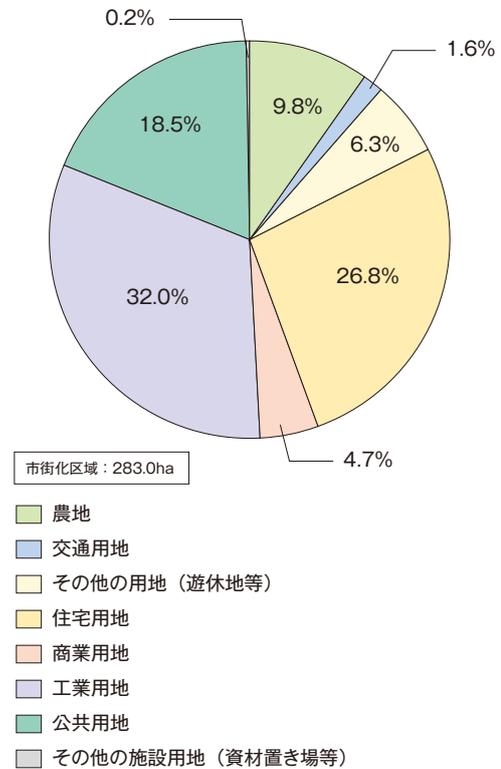
3-1

# 計画的な土地利用・住環境の整備

## 現状と課題

- 本町では昭和46年に区域区分\*が導入され、開発の規制・誘導を的確に行い、適正な土地利用を推進してきました。今後、(仮称)大野・神戸 IC の整備に伴い、企業誘致の推進や従業員の居住などの新たな土地需要が見込まれることから、計画的な土地利用を検討する必要があります。
- 市街地(市街化区域\*)は、各地域の生活拠点及び交流拠点として重要な役割を担っていますが、近年は空き家や低未利用地\*の増加など、空洞化の進行や賑わいの低下が課題となっていることから、有効な土地利用を推進する必要があります。
- 高齢者世帯の増加が見込まれることから、バリアフリー\*やノーマライゼーション\*の理念に基づく快適な住宅づくりが必要であるとともに、近い将来に発生が危惧されている南海トラフ地震などの大規模地震に対応した耐震化の促進が必要です。

▶市街化区域の土地利用



資料：神戸町資料（産業建設課）

## まちづくりの指標

【指標】	現況値	平成32年度	平成36年度
<b>市街化区域内の低未利用地*率</b> 市街化区域に対する低未利用地（都市計画基礎調査の土地利用における田・畑・山林・その他自然地・その他の空地）の割合	14.9% (平成25年度)	13%	12%
<b>空き家のあっせん件数</b> 空き家の取得希望者へのあっせん件数	— (平成27年度)	10件	20件

## 目指すまちの姿（目標）と主要施策

### (1) 計画的な土地利用の推進

- 土地利用関連法令の適正な運用により、計画的な土地利用を進めます。
- 市街地（市街化区域\*）内の空き家や低未利用地について、活用に向けた検討を進めます。
- 🔥 企業立地や従業員の居住などの受け皿となる新たな用地の確保に向けて、土地区画整理事業\*や地区計画制度\*を活用し、市街地の整備と農地の保全の双方の視点から、計画的な土地利用を進めます。

### (2) 安全・快適な都市空間の形成

- 南海トラフ地震や養老 - 桑名 - 四日市断層帯地震などの大規模地震に備えた耐震診断を促進します。
- 安全で快適な住まいの確保に向けて、民間住宅の耐震改修及びリフォームに関する支援を促進します。
- 防災性や防犯性などの観点から地域環境への影響が懸念される空き家について、実態を調査するとともに、空き家発生の抑制、利活用などについて検討します。

### (3) 移住・定住の促進

- 子育て世帯の移住・定住促進、安全で快適な住宅環境に向けて、転入者への住宅購入や既存住宅のリフォームなどに対する支援制度の検討を進めます。
- 空き家の情報を一元的に管理するとともに、不動産業者への情報提供、取得希望者へのあっせんに向けた空き家バンクの設立などを検討します。
- 移住・定住促進や交流促進を図るため、住宅、産業・雇用、観光などに関する各種情報を積極的に発信し、まちの魅力のPRを強化します。

（仮称）大野・神戸 IC



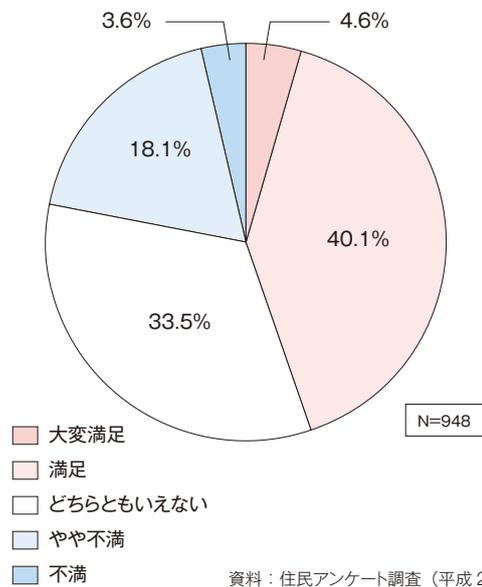
3-2

# 道路・交通体系の整備

## 現状と課題

- 本町では、東海環状自動車道（仮称）大野・神戸 IC の整備により、広域的なアクセス性の飛躍的な向上が見込まれることから、自動車交通の変化に対応した道路網整備が求められています。また、幹線道路の安全確保やスムーズな交通流動を維持する道路ネットワークの整備が求められています。
- 住民の日常生活を支える生活道路については、適切な維持管理及び計画的な補修・整備を図る必要があります。
- 市街地の生活道路では、幅員の狭い箇所や見通しの悪い箇所があり、防災面からも安全・安心な道路環境に向けた改良の必要があり、費用対効果を踏まえた計画的な整備や地元との合意形成、事業費の確保が必要となっています。

▶道路の整備状況に対する満足度



- マイカー利用の増大や少子高齢化の進展といった社会情勢の変化により、バスや鉄道の利用者は減少しています。特に、養老鉄道は経営環境が厳しい状況ですが、高齢者や学生などの交通弱者\*の重要な移動手段となっていることから、沿線市町の連携・支援による維持・確保が求められています。また、鉄道の利用促進を図りつつ、町としての活力が維持できるよう努める必要があります。

## まちづくりの指標

[ 指標 ]	現況値	平成32年度	平成36年度
<b>道路維持管理に関する要望件数</b> 各区からの道路整備に対する要望件数及び住民からの苦情件数	130 件 / 年 (平成 26 年度)	100 件 / 年	80 件 / 年
<b>養老鉄道の乗降客数</b> 広神戸駅・北神戸駅・東赤坂駅における 1 日あたりの乗降客数	1,670 人 / 日 (平成 27 年度)	1,690 人 / 日	1,710 人 / 日
<b>交通の利便性が満足・普通と思う住民割合</b> アンケート調査の大変満足・やや満足・普通の回答割合（母数から無回答を除く）	65.4% (平成 27 年度)	69%	↗

## 目指すまちの姿（目標）と主要施策

### (1) 広域幹線道路の整備促進

- 東西軸、南北軸の強化を図るとともに、広域的な幹線道路を中心に町道の整備を進めます。
- 町内の道路交通の円滑化を目指し、都市計画道路をはじめとした広域的幹線道路の体系的かつ計画的な整備を関係機関に要請していきます。また、都市計画道路については、交通需要に応じて必要な見直しを図ります。

### (2) 安全・安心な生活道路の整備と維持管理

- 幅員の狭い生活道路について、住民の要望や協力を得ながら適切な改良を進めます。
- 老朽化する道路ストック\*を適切に維持管理できるよう、安全性の調査・点検を実施し、老朽化対策及び点検結果に基づく計画的な予防安全対策を進めます。
- 「神戸町橋梁長寿命化計画」に基づき、橋梁の計画的な点検の実施及び修繕を推進します。

### (3) 公共交通網の維持・充実

- 高齢者や学生などの生活において重要な役割を果たす養老鉄道は、将来にわたって安全・安心に利用できるように、沿線市町と協議を進めながら、支援を継続し、マイレール意識\*の醸成に努めます。
- 通勤・通学時に養老鉄道を利用しやすいようにパークアンドライド\*の検討などを行い、利便性の向上や鉄道の利用促進を図ります。
- 名阪近鉄バス大垣大野線については、引き続き補助金を交付することで、今後もバス交通の維持を図ります。

養老鉄道



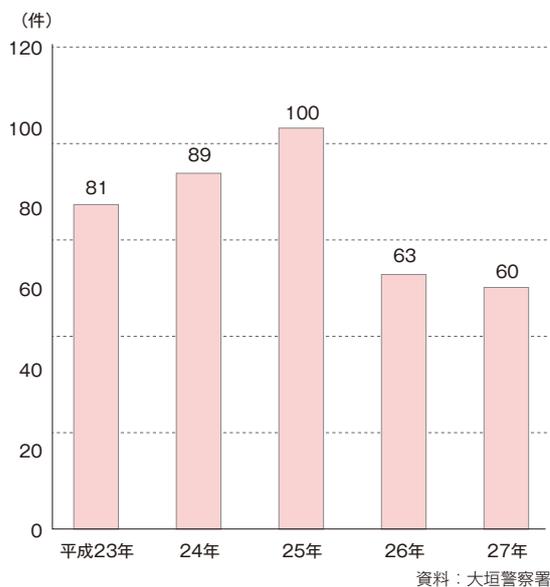
3-3

## 交通安全対策の推進

### 現状と課題

- 本町における交通事故は減少傾向にありますが、依然として幼稚園・小中学校の児童生徒、高齢者が関わる事故が発生しています。そのため、大垣警察署や神戸交番、大安地区交通安全協会神戸支部などと連携し、地域や各学校、老人大学などにおける交通安全啓発を徹底する必要があります。
- 全国的に高齢化の進行により高齢者が交通事故を起こすケース、交通事故に巻き込まれるケースが増加していることから、高齢者への交通安全啓発を推進する必要があります。
- 生活道路については、道路照明灯や防犯灯、カーブミラーといった交通安全施設を適切に維持管理し、歩行者や自転車の安全な通行が確保された地域交通網の確立が求められています。

### ▶交通事故発生件数



### まちづくりの指標

[ 指標 ]	現況値	▶ 平成32年度	▶ 平成36年度
交通事故防止大会の参加者数 交通事故防止大会への参加者数	442人 (平成26年度)	▶ 475人	▶ 500人
カーブミラーの設置数 町内に設置されているカーブミラーの数	1,197基 (平成26年度)	▶ 1,230基	▶ 1,250基
道路交通の安全性が満足・普通と思う住民割合 アンケート調査の大変満足・やや満足・普通の回答割合（母数から無回答を除く）	77.6% (平成27年度)	▶ 80%	▶ ↗

1

2

3

4

5

資料編

## 目指すまちの姿（目標）と主要施策

### (1) 交通安全意識の啓発

- 大垣警察署などの関係機関と連携しながら、交通安全の指導体制の強化を図ります。
- 幼児や小・中学生、高齢者など、年齢に合わせた交通安全教育、意識啓発活動を進めます。

### (2) 交通安全環境の充実

- 新たな道路網の整備などによる交通環境の変化に応じて交通事故危険箇所の把握に努めるとともに、通学路などを中心に交通安全施設の整備を進めます。
- 歩道部分の段差解消など、子どもや高齢者に配慮した歩行空間を確保したバリアフリー化\*を推進します。
- 歩道の設置が困難な道路では、路肩部分のカラー舗装整備などにより、安全な歩道整備に努めます。
- 老朽化する道路ストック\*を適切に維持管理できるよう、安全性の調査・点検を実施し、老朽化対策及び点検結果に基づく計画的な予防安全対策を進めます。
- 通学路の安全対策については、通学路総点検の結果に基づき、関係機関と連携して要対策箇所の安全確保のための改良及び対策を進めます。
- 危険が予想される箇所に道路照明灯や防犯灯、カーブミラーといった交通安全施設を整備し、安全確保に努めます。

交通安全教育



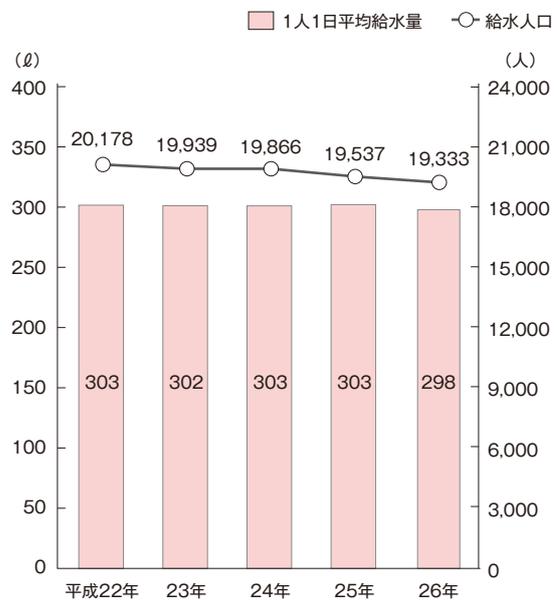
3-4

# 上下水道の整備

## 現状と課題

- 本町の水道事業は、昭和35年に神戸町広域簡易水道\*事業として創設認可を受け、その後、人口・給水量の増加に合わせて拡大を図り、普及率は97.7%と高い水準となっています。しかし、今日においては、人口減少に伴う給水収益の減少を見据えた健全な経営管理、施設の老朽化に対応した計画的な更新・整備が求められています。
- 本町の下水道加入率は約50%となっていますが、下水道事業は利用者の負担により運営されているため、受益世帯地区への説明会や啓発活動により加入促進に努め、安定した事業運営を図る必要があります。
- 「神戸町公共下水道事業全体計画」に基づく下水道の整備予定区域全体の完成を目指すとともに、将来的な施設の老朽化に備え、適正な維持管理が求められています。

▶給水人口・1人1日平均給水量



資料：神戸町資料（上下水道課）

## まちづくりの指標

[ 指標 ]	現況値	平成32年度	平成36年度
<b>水道普及率</b> 上水道を利用している住民の割合	97.7% (平成27年度)	98.5%	99.5%
<b>有収率*</b> 漏水などを除いた水道料金収入となる水量の割合	76.9% (平成27年度)	80.2%	83.0%
<b>下水道普及率</b> 人口に対して下水道が利用できる区域に住む住民の割合	66.8% (平成27年度)	84.3%	98.3%

総論

基本構想

基本計画

1

2

3

4

5

資料編

## 目指すまちの姿（目標）と主要施策

### （1）安定した上水の供給

- 上水道事業の健全な経営、施設の更新などに向けた経営計画を策定し、安定した経営の維持に努めます。
- 安全で安定した供給を確保するため、適切な水質検査の実施及び結果を定期的に公表します。

### （2）下水道の整備・維持管理と普及促進

- 「神戸町公共下水道事業全体計画」に基づき、平成37年度までの全体整備完成を目指して下水道整備事業を推進します。
- 下水道施設などの合理的な更新・整備を検討し、アセットマネジメント（資産管理・運用）\*の確立を目指します。
- 下水道普及率の向上を図るため、住民への説明・接続支援などにより加入促進に努め、効率的な事業経営を進めます。

神戸浄化センター



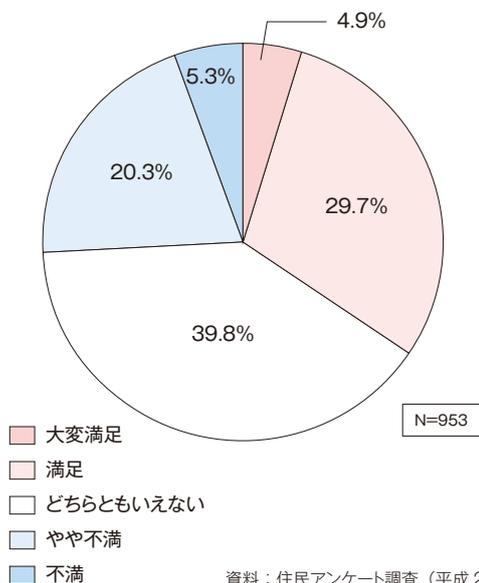
3-5

## 公園・緑地の整備

### 現状と課題

- 公園・緑地は、健康づくりの場やコミュニティ活動の場、災害時における避難場所として重要な空間であり、身近な公園・緑地の整備に対する要望が高まっていますが、その充足度や配置のバランスがとれていないため、誘致距離や利用目的を考慮した整備が求められています。
- 本町では、8箇所の公園が整備されていますが、住民一人あたりの公園面積は17㎡であり、目標面積の20㎡を下回ることから、緑あふれる都市環境の創出に向けた公園の整備を進める必要があります。
- 町南部の大垣輪中は、四季折々の花・植物が楽しめる散策路・ジョギングコースとして親しまれています。今後とも、地域と協力しながら、良好な生息・生育環境の保全に努める必要があります。

### ▶公園・緑地に対する満足度



### まちづくりの指標

[ 指標 ]	現況値	▶ 平成32年度	▶ 平成36年度
<b>整備済みの都市公園</b> 都市計画決定された公園の整備箇所数	1 箇所 (平成27年度)	▶ 2 箇所	▶ →
<b>公園や緑地が満足・普通と思う住民割合</b> アンケート調査の大変満足・やや満足・普通の回答割合（母数から無回答を除く）	74.4% (平成27年度)	▶ 80%	▶ 85%

## 目指すまちの姿（目標）と主要施策

### （1）身近な公園・緑地の確保

- 子どもから高齢者までだれもが気軽に利用でき、健康づくり、コミュニティ活動の場として活用できる魅力ある公園の整備、維持管理を図ります。
- 「緑の基本計画」に基づき、住民一人あたりの公園面積の増加を目指すとともに、線的な緑地の確保に努め、公園・緑地のネットワーク化を推進します。
- 子どもの遊び場となる公園については、遊具の適正な維持管理を図ります。

### （2）地域緑化の推進

- 住民、企業、行政が一体となって花と緑の豊かなまちづくりに向けて、公共施設や民間施設における緑化活動を推進します。
- 本町の特徴である大垣輪中は、四季折々の花や草木を楽しむことができる住民のふれあいの場として、環境の保全を図ります。

輪中堤



3-6

# 生活・自然環境の保全

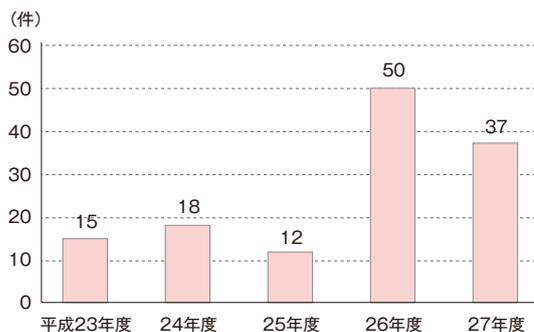
## 現状と課題

- 環境問題がますます深刻化するなか、本町においても、これまで以上に3R\*の浸透を図るとともに、再生可能エネルギー\*の導入や省エネルギーの啓発などにより、町全体で環境にやさしい社会を構築していくことが求められています。
- リサイクル活動の拠点施設である「エコプラザごうど」では、活動するボランティアの高齢化が進行していることから、新たな担い手の確保が求められています。
- 依然としてごみのポイ捨てや廃棄物の不法投棄、ペットの不適正な飼育がみられることから、町や大垣警察署、地域社会との連携による監視の強化を図るとともに、一人ひとりのマナー意識の向上が求められています。
- 農地や河川などの自然環境は、美しい景観の構成要素であるとともに、水害を防止する上でも重要な役割を果たすことから、多様な観点から保全に努める必要があります。また、河川については、住民生活に潤いをもたらす親水空間\*としての環境づくりが重要となっています。

### ▶一人あたりごみ排出量



### ▶不法投棄件数



資料：神戸町資料（住民環境課）

## まちづくりの指標

【指標】	現況値	▶ 平成32年度	▶ 平成36年度
<b>資源ごみの回収量</b> 住民1人あたりの紙・金属・ガラス・ペット・プラスチックなどの年間回収量	44.8kg/年 (平成26年度)	▶ 49kg/年	▶ 54kg/年
<b>家庭用太陽光発電パネルの利用申請件数</b> 家庭用太陽光発電パネルの利用に関する申請件数	35件 (平成27年度)	▶ 50件	▶ →
<b>生活・自然環境の保全が満足・普通と思う住民割合</b> アンケート調査の大変満足・やや満足・普通回答割合（母数から無回答を除く）	89.7% (平成27年度)	▶ 93%	▶ ↗

## 目指すまちの姿（目標）と主要施策

### （1）環境にやさしい地域社会の形成

- エコプラザごうどの回収体制の活性化を図り、積極的に情報を発信するとともに、ボランティア活動の充実を図り、住民と一体となっておみの減量化に取り組みます。
- 手軽にできる生ごみの減量化講座、地域における故紙回収などの実施を通して、一人ひとりのごみ減量化の意識醸成を図り、3R\*の実現に向けた具体的な取組を充実させ、循環型社会\*の構築を目指します。さらに、消費者にできる行動としての観点から、拒否（Refuse）、修理（Repair）を加えた5Rの啓発にも努めます。
- 事業所から排出される産業廃棄物は、自ら処理することを原則として、適正に処理、処分されるよう関係機関と連携しながら啓発、指導の強化に努めます。
- 住宅用太陽光発電システム設置整備事業補助金を継続し、再生可能エネルギー\*を活用した環境にやさしいクリーンエネルギー設備の導入を促進します。

### （2）快適な生活環境の維持・向上

- 学校教育や社会教育を通じてごみの排出やペットの育成のマナーに関する意識啓発を図ります。
- ごみの分別指導や集積所の衛生活動を促進し、地域の環境美化を図ります。また、関係機関と連携して巡回監視を実施し、不法投棄の防止に努めます。

### （3）自然景観・河川環境の保全

- 本町を流れる揖斐川をはじめとした河川や周辺の田園風景は、貴重な自然環境として保全に努めるとともに、美しい景観づくり、空間づくりを進めます。
- 広報紙などによる周知やパトロールの実施により、雑草の管理や野焼きの防止に努めます。
- 河川環境の適切な維持に努め、浸水被害などの防止を図ります。

エコプラザごうどの資源ごみ回収

